

○3番（菊池勝美議員） 3番菊池勝美でございます。ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行います。

私は、常に地域の声を大切にということをもットーに生活をしております。その観点から、次の2つの項目について質問をさせていただきます。

最初の項目は、高齢者生産活動センターの運営等について質問をいたします。

1点目は、施設の運営状況等についてお伺いいたします。

高齢者生産活動センターは、「山村振興法」に基づき、高齢者の多い山村を対象とした補助事業により、高齢者の健康づくり、生きがいくりと併せ、山村振興の活性化を図ることを目的といたしまして、昭和55年度に整備された施設と伺っております。その施設の利用状況や販路、生産団体の会員数の推移等々を含めまして、運営状況についてお伺いをいたします。

2点目は、当該施設の今後の課題等についてお伺いをいたします。

ただいま申し上げましたように、昭和55年度に整備をされた施設でありますので、将来、老朽化のため運営していくことが困難になることも想定されますし、課題等もあると思われまます。また、この施設を利用して作っているしめ飾りなどは大変有名でありますので、今後、施設運営を継続していくためにどのような対応をされるのか、その考え方を伺いいたします。

続きまして、2項目めの北部山間地における新たなコミュニティ活動の在り方について質問をさせていただきます。

現在、ある地域で直面していることがございます。それは人口減少、高齢化による道路の清掃作業などの地域共同作業や広報紙などの配布方法等において、年々、困難な状況になってきていることでもあります。

まず、道路の清掃作業の現状を申し上げますと、清掃する距離は以前と全く同じではありませんが、参加人数が減少をしております。以前は10軒ほどありましたが、現在は7軒になり、そのうちここの二年は5軒で実施をしております。主な作業と申しますと、市内一斉の清掃作業と、それから、西金砂登山マラソン直前の時期の清掃作業と、毎年2回実施をしております、年々、大変だという声があります。しかしながら、地域のため、そして特に西金砂登山マラソン直前の清掃作業については、来場者の喜ぶ顔を想像しながら頑張っているということでもあります。

また、広報紙などの回覧が容易でないという状況について若干申し上げたいと思いますが、先日、私、金砂郷地区の北部山間部にある家庭にお伺いをいたしまして、いろいろ世間話をしておりましたところ、少し大げさかもしれませんが、私としては、生まれて初めての光景が私の目に飛び込んでまいりました。

それは、回覧板であります。回覧と申しても、この地域ではしばらく前から、もちろん私の地域もそうなのですが、私の地域あたりでは、当時農協さんからいただいた布製の丈夫な手提げ袋の中に、各戸配布するものやら回覧するもの等々を入れまして順に回覧をしている。これは私が言うまでもなく、どこの地域でも同じであろうと思っております。ところが、その家で見えたものは手提げ袋ではなくて、市から配達された大きめの青い封筒が置いてあったものであります。市から配達された封筒が置いてあっても何ら不思議ではございません。しかし、封筒の余白の部分に、

最後の方はこの袋を処分してくださいと書かれてあったわけでありませぬ。

これを見たときには、先ほど申し上げました、私、生まれて初めてこういう光景を見たわけでありませぬので、大変な驚きと同時にショックを受けたものでございませぬ。恐らくこの議場におられる皆さん方、このような光景はまずご覧になったことはないであろうと思ひませぬし、また、想像をもしたことはないと思ひませぬ。これは、布製の手提げ袋を使った場合には、この班の最後の方が班長さんのお宅に戻さなければなりません。この最後の家の場合は班長さんのお宅から約1キロちょっと離れており、さらに90歳という高齢でもあるため、班長さんの配慮によるものだなと感じたものでございませぬ。

この地域がこのような状況になったということ、これは北部山間部や近隣の地域、町会等ではどういふ状況にあるんだろうという心配をしたものでありませぬ。この地域は、金砂郷支所からは十数キロの距離にあり、ほとんどの家庭が高齢者のみの集落でありませぬ。7世帯のうち6世帯が高齢者世帯であり、今後、地域での人口減少、高齢化が進めば、このような事案や限界集落等々が生じるのは喫緊の課題ではないかなと考へておりませぬ。

そういう中で、市では新たな地域コミュニティのプラットフォーム化を推進してきておりませぬが、コミュニティ活動の内容が公民館活動からなかなか脱却をできていないといういふ声も聞こえてまいりませぬ。本来であれば高齢者の見守り支援など、地域の課題等々について積極的に活動の中に取り組んでいく必要があるといういふように考へますが、市としてはこのような状況をどのいふように考へているのか、地域コミュニティの在り方についてのご所見をお伺ひしたいと思ひませぬ。

以上で第1回目の質問を終わります。ご答弁よろしくお願ひをいたします。

○川又照雄議長 答弁を求めませぬ。保健福祉部長。

〔柴田道彰保健福祉部長 登壇〕

○柴田道彰保健福祉部長 高齢者生産活動センターについての2点のご質問にお答へをいたします。

初めに、施設の運営等についてでございますが、高齢者生産活動センターは、昭和55年、国の高齢者生産活動センター建設モデル事業により、旧里美村の事業として、高齢者の経験や技術、知識を生かした生産活動を通しての就業機会を増大させ、社会参加による健康な生活とその生きがいを高めるとともに、山村地域の振興に資することを目的に設置をされております。

施設の管理運営につきましては、平成26年度に指定管理者制度を導入するまで、市が直営で行っておりまして、現在は公益社団法人常陸太田市シルバー人材センターに委ねているところでございませぬ。

施設の利用者数につきましては、過去3年間の延べ人数になりますが、平成29年度が3,838人、平成30年度が4,093人、令和元年度が3,761人でございませぬ。主たる利用状況でございますが、昭和55年開設当初より地域の高齢者の方が生産団体を組織し、施設を活用しまして、漬物などの加工食品、しめ縄やしめ飾りを生産販売しております。

この生産団体の会員数は、開設当時には100人を超えておりましたが、年々減少してきておりまして、平成25年頃からは20名前後で経営をしている状況でございます。

生産商品の販路につきましては、しめ縄を県内で生産しているのは当該団体のみで、格安であることもあり注文が年間200件を超えており、県内では日立神峰神社、大洗磯前神社、県外は伊勢神宮、鹿児島や京都の神社に納品し、漬物やみそなどの加工食品は道の駅ひたちおおたを中心に、日立市、ひたちなか市、水戸市、常陸大宮市の道の駅やドライブイン、スーパーやJA直売所などに納品しているとのことでございます。

次に、今後の課題等についてでございますが、この施設は開設後40年が経過しており、施設の老朽化が著しいとともに耐震基準を満たしていないため、平成30年度に策定した常陸太田市公共施設等再配置計画において、既存施設の維持について既存サービスを他施設で代替することとしており、実現には至っておりませんが、近隣施設である里美ふれあい館への移転について、施設の利用者である生産団体等と検討を進めてきたところでございます。

今後も施設機能の移転規模、生産活動の継続性、持続性等の課題について、生産団体会員の平均年齢が約70歳と高齢である点を踏まえながら、引き続き要望や意見等を広くお聞きし、利用者目線に立った機能維持が図られるよう、慎重かつ丁寧に対応してまいりたいと考えております。

○川又照雄議長 市民生活部長。

[鈴木淳市民生活部長 登壇]

○鈴木淳市民生活部長 地域コミュニティの在り方についてのご質問にお答えいたします。

新たな地域コミュニティにつきましては、近年の人口減少、少子・高齢化等により、今までどおりのコミュニティ活動が困難となっていく中、今後の地域コミュニティの在り方として、これまでの町会単位の枠を超えた広い範囲の中の町会や公民館、社会福祉協議会の支部、子ども会、老人クラブなど、地域で活動する団体等のネットワーク化を進め、共助の精神においてお互いが連携し合い、地域活動を広め、地域の様々な課題解決を図る必要性から推進するものでございます。

さらに、地域コミュニティの構築に伴い、地域住民が一堂に会し、それぞれの地域について語り合い、より多くの方々が自らの手で地域の維持、振興のための活動を行う住民自治組織の基盤となるものと考えております。

議員ご発言のとおり、まだまだ地域課題を解決するためのきめ細やかな活動ができていない部分もあろうかとは思いますが、既に設立された各地域のコミュニティの活動の成果といたしましては、久米の郷住みよい地域をつくる会では新しい住民との融合、町会加入率の向上として触れ合い祭りの開催、高倉地域づくりの会では地域の交通弱者の外出支援として、公共交通空白地有償運送サービスの実施、賀美を愛する会では耕作放棄地の利活用と高齢者生きがい活動の推進としてジュウネ栽培とエゴマ油の活用、山田コミュニティではイノシシなどからの被害予防策として、有害鳥獣捕獲隊との連携による有害鳥獣駆除の活動をはじめ、コミュニティ内の各町会が連携した総合防災訓練の実施など、地域の課題解決のための新たな施策が展開されているところでございます。

今後ますます人口減少、高齢化が進めば、地域に暮らす高齢者等の日常生活において様々な課題が発生し、これまで町会等で解決できていた課題等も解決困難になってくることが予想できま

すので、引き続き新たな地域コミュニティの設立を推進するとともに、その活動の在り方につきましては今後の課題とし、各コミュニティ活動が地域の課題解決等に効果的に取り組めるよう、積極的に支援してまいりたいと考えております。

○川又照雄議長 菊池勝美議員。

〔3番 菊池勝美議員 質問者席へ〕

○3番（菊池勝美議員） ありがとうございます。2回目になるんですけども、2回目は質問というよりも要望という形を申し上げたいと思っております。

1項目めの高齢者生産活動センターの運営等につきましては、しめ縄、しめ飾り、これらは県内外から注文があり、また、漬物やみそなどは県内を中心に販売をされているということであります。特に、しめ縄につきましては三重県、鹿児島県、京都府等々県外からも多くの注文がある状況でありますので、ぜひ今後ともこの状況が続けていただきたい、このように思っております。

また、先日、職員の方のしめ飾り等の利用について、職員の方から話を伺いましたところ、現在でも市役所の職員の方もしめ飾りを利用されているというお話を伺いました。実は私も、しめ飾りは旧金砂郷時代から毎年利用をさせていただいております。昨年暮れにも、しめ飾りなどを買いに高齢者生産活動センターに伺いまして、いろいろ懇談をしていましたところ、偶然にも高齢福祉課長さんがおいでになりました。これは、職員の方のしめ飾り利用と併せまして、市としての支援というものを感じた次第であります。

今後とも、高齢者の社会参加や高齢者の健康づくり、生きがいくりのため、そして、一般の方からも大変喜ばれております伝統工芸の継承という意味でも、施設機能の存続のためのご支援をお願いしたいと思います。

また、施設の再整備につきましては、利用者の平均年齢が70歳という高齢であることを踏まえまして、生産活動の継続性、持続性等々については、既に生産団体や地元の方々と検討をされているということであります。移転の場合においても、どのような形にするのか話し合いをされているとのことでありますので、高齢者の働きやすい環境づくりに配慮しながらぜひとも進めていただきたい、このように思っております。

それから、2項目めの新たな地域コミュニティの在り方につきましては、少子化・高齢化による諸問題を解決するため、活動の中で支援をするというご答弁をいただきました。ある町会長の話によりますと、昨年は10月、11月、12月と、それぞれいろんな形で説明会が開催されたという話を伺いました。これは町会設置に関する規則の見直しやら、町会長業務等の見直しメインであったそうではありますが、新しいコミュニティづくりについても話し合いがされたというふうに伺っております。このような地域が多く出ないように、残りの地区の新たな地域コミュニティのできるだけ早い時期の設立に向け、市のご協力をお願いし、また、期待をいたしたいと思っております。

先ほどの回覧板の関係で触れましたけれども、封筒の余白に最後の方はこの袋を処分してくださいと書いてあったことを申し上げましたが、ぜひ皆さん方も想像してみてください。近い将来、またはいつの日か、皆さん方のところにも、最後の方はこの袋を処分してくださいと書かれた回

覧板が回ってきたときのことを。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。